



芝山小だより



12月号

清瀬市立芝山小学校

校長 寺井 俊敬

<http://www.kiyose.ed.jp/>

壁を乗り越える

特別支援教室担当

子供たちだけでなく、私たち大人も得意なこともあれば苦手なこともあります。苦手なことを少しでも克服しようと、特別支援教室きらりでは、私たちは、子供たちと日々学んでいます。

十人十色。10人いればそれぞれに苦手なことは違います。個人個人の目的に合わせた「個別学習」、集団の中でスキルを学んでいく「きらりタイム」、体を動かしながら身体機能を高めていく「のびのびタイム」、集中力を高めていく「ぐんぐんタイム」。特別支援教室きらりでは、一人一人の子供たちに応じた計画に沿って自立活動を進めています。

さて、人は時に乗り越えることの容易でない、「壁」に直面することがあります。皆さんは、そんなとき、どのように対処しているでしょうか。子供たちは、日々、そのような「壁」に直面しています。

対処の方法として、その一つに誰かに「援助を求める」ということがあります。子供たちが自分の苦手なことや分からないことがあった時、つまり「壁」に直面した時に、誰かに「援助を求める」ということをできるようにすることが特別支援教室の役割の一つだと思います。

きらりでは

- ① 苦手なことがあることははずかしいことではない。
- ② 頑張ろうとする気持ちがあっても、頑張ろうとしているけれど、難しいことについては、「教えてほしい」「助けてほしい」と伝えた方がよい。
- ③ 相談したり、助けを求めたりするタイミングが分からなければ、「今、相談していいですか。」と聞けばよい。ことを伝えています。

ところで、私は、子供たちからだけでなく、保護者から相談されることがよくあります。つまり援助を求められているわけです。私は、相談してきた子供たちや保護者が、どうしたらよいか、どうしたら「壁」を乗り越えられるか、考えます。しかし、「壁」を乗り越える、というのは本当に難しく、適切な返事ができているかどうかいつも悩みます。

臨床心理学者の河合隼雄さんは、「心理療法入門」という本の中で、「相談を受ける側が、ある困難を苦勞して克服した場合、相談者が同じ悩みを訴えてくるとき、その気持ちがよくわかる。…そこに生じる共感的な理解が支援を促進する。」と書いています。もちろん相談してきた人の全ての悩みを体験することはできません。しかし、体験したことのない「壁」であっても、想像し、共感的な気持ちで寄り添えるように努めていくことが大切であると考えます。

人は、「壁」に直面した時に悩みます。しかし、一方で「壁」や多くの苦勞を乗り越えた経験が、その人を成長させ、人生を豊かなものにしてくれると思います。特別支援教室きらりでは、これからも子供たちが「壁」を乗り越えられるために、共に悩み、共に考え成長していきたいと考えます。